

神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490

FAX (078) 361-4539

http://nस्क-kobeshoten.org/ 振替口座 01110-2-10517

2015年 4月

復活節

祝御復活～エマオ途上で～

二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。

(ルカ24:32)

司祭 ミカエル 小南 晃

今年の復活日は、丁度桜の季節となりました。教会近くの宇治川沿いの桜並木も満開で自ずと心が浮き立って参ります。

復活日は言うまでもなく、教会最大の祝日です。十字架にかかって死なれた主イエス・キリストが三日目に復活された出来事、それが私たちにとって永遠の命という最大の喜び、幸せを約束してくれるものだからです。しかし私たちはこのことをいつも意識しているのでしょうか。

淡い期待としての復活

復活信仰はキリスト教独自の信仰かという、必ずしもそういうことではありません。

ヨハネ福音書11章には、兄弟ラザロが死んだことを嘆く姉妹マルタとイエスとの対話が出て参ります。「イエスが、『あなたの兄弟は復活する』と言われると、マルタは『終わりの日の復活の時に復活することは存じております』と言った。(ヨハネ11:23-24)」

こうした終わりの日に復活するという期待はマルタだけでなく、当時のファリサイ派の人びとも抱いていました。また多くの宗教においても魂の不滅など、死んで終

わりではないという希望は持っています。しかしそれらはどこか淡い希望に過ぎず、マルタがそうであったように悲しみと諦めが拭いきれてはいないのではないのでしょうか。

死んでも生きる信仰

マルタの復活信仰の告白に、イエスはさらに「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。(ヨハネ11:25)」と強い言葉で問いかけます。即ち、主イエスが与えてくださる永遠の命、復活とは、どこか悲しみを残したまま、淡い期待として抱くようなものではないということです。

同様なことをパウロも語っています。「この世の生活でキリストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人中以最も惨めな者です(1コリント15:18)」と断じた上で、「しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となりました。(1コリント15:19)」と、キリストの復活の事実と、私たち自身に約束されている復活の確かさについて語っています。

心を燃えさせる出来事

ルカによる福音書24:13以下には、エマオへの途上の二人の弟子たちに復活の主が現れたことが記されています。

彼らは主イエスの十字架による死を嘆き、しかしその主が三日目に復活されたという婦人たちの証言を伝え聞いて、その話をいぶかしがりながら沈んだ思いで歩いていました。復活の主イエス・キリストはそのような二人に近づき、そしてずっと寄り添って行かれました。

やがてイエスの方から彼らに語りかけ、聖書を説き明かされました。そして彼らと共に食卓に着き、パンを裂かれた時、弟子たちの目が開け、その方が復活の主イエス・キリストであることが分ったというものです。冒頭の聖句はその時の二人の言葉です。

復活の主が共に居てくださり、み言葉を説き明かされ、そしてパンを裂く、即ち聖餐の交わりを与えられるなかで、私たちには「心が燃える」ということが起るのです。それはどこかに諦めを残しながら淡い復活の期待を抱くというのではなく、溢れるような喜びです。

復活の主イエス・キリストは常に私たちと共にいて歩んでくださっています。そしてその心を燃えさせる復活の主イエス・キリストとの出会いは、今、ことに主日礼拝において備えられているのです。

主日礼拝を共に守りながら、喜びに溢れた復活信仰を一層確かなものにして参りましょう。

定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式
 " 9時15分 教会学校
 " 10時30分 聖餐式・説教
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会
 土 午前10時30分 教会掃除
 (ご奉仕をお願いします)